

# 明日 への 話題

## バブル超え



大和証券グループ本社  
取締役会長

ひびの たかし  
日比野 隆司

昨年に続き2024年の日本株市場は力強い上昇を見せ、日経平均株価は2月に史上最高値を更新した。1月に本稿執筆依頼を受けた折には、実のところ多少勇み足かと思いつつ「バブル超え」というタイトルとした経緯がある。年内の最高値更新を予想する市場関係者はいたが、年初早々バブル超えを果たすスピード感は大方向の想定を超えている。

年初来、米国はじめ主要国で最高値を更新する動きとなっているが、日本株市場の際立った強さの背景には我が国資本市場に吹く多くのフォローウィンドがある。

昨年来の物価上昇と賃上げ機運の高まりで「デフレからの完全脱却」の確度が増すマクロ環境の中、上場企業全体の業績は来年度も史上最高益が期待されている。

一連のコーポレートガバナンス改革や、東証の市場再編、資本コストや株価を意識した経営の要請は上場企業の意識改革に繋がり、世界の投資家を惹きつけている。

そこへ新NISAを通じた、株式市場への新たな資金流入が始まった。この新NISAの極めて大きな市場インパクトについての認識も急速に高まっている。つみたて投資枠と成長投資枠合計で年間360万円の非課税枠に、成人人口約1億人を単純に掛け合わせると年間360兆円、5年間で1,800兆円にもなる。もちろん、1億人がフルインベストに至る訳ではないが、1割の利用でも180兆円が投資に向かうことになり大変なインパクトとなる。株式や為替市場に与える影響は大きく、ストラテジストにとってもNISAウォッチは欠かせないルーティンになるだろう。

新NISAはメディアでも広く取り上げられ、投資未経験の若年層や主婦層も含め多くの国民の関心を集めている。政府の掲げる2027年末のNISA口座数3,400万口座、買付総額56兆円という目標も前倒しで達成されるのではないかと。

日本は今、資本市場関係者長年の悲願である「貯蓄から投資へ」が動き出す歴史的転換点を迎えている。日経平均株価の38,915円超えは、指数構成も異なり実質的な意味は限られるが、日本の経済人・投資家にとってバブル崩壊のトラウマからの解放という点で意義深い。「貯蓄から投資へ」の動きを阻んでいた障害のひとつが取り除かれることにもなる。

一方で、バブル超えにあたっての心構えも重要だ。空虚な株高のユーフォリア、「失われた30年」に繋がる巨大な負の遺産を残すようなバブル生成を繰り返す訳にはいかない。折しも今年発足する金融経済教育推進機構は、金融経済教育の機会を官民一体で拡充し、国民の金融リテラシー向上を目指す。こうした取組みもありバブルを助長するような株式市場にはならないと思うが、市場関係者には、証券市場を通じた着実な資産形成や資本市場を活用した企業価値向上のサポートに真摯に取り組んでいくことが一段と求められる。